

今月の星空



川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum

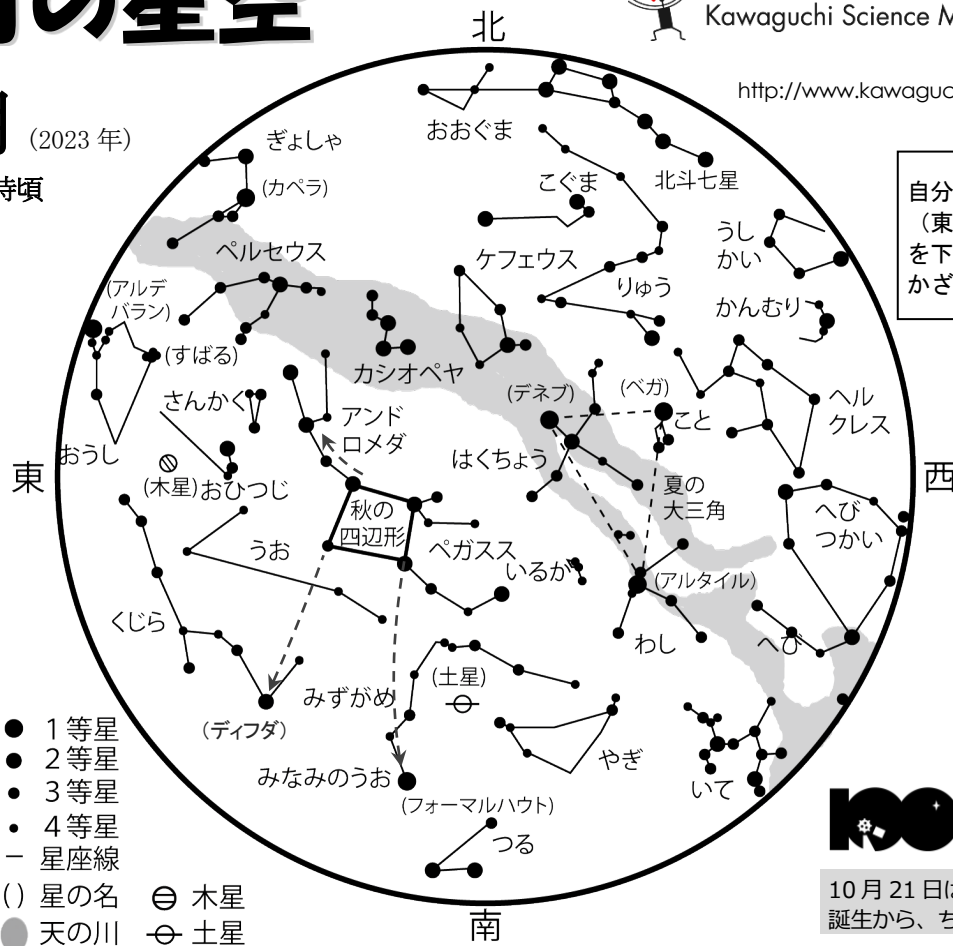


tel 048(262)8431

http://www.kawaguchi.science.museum/

10月 (2023年)

中旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方角を下
(東の空を見るときは東
を下)にして、頭の上に
かざして見ます。

プラネタリウム
100周年
10月21日は近代プラネタリウム
誕生から、ちょうど100年

月 齢 ① 下弦 6 日、● 新月 15 日、② 上弦 22 日、○ 満月 29 日
惑星情報 金星 日の出前 東→南東(しし座 -5→-4等) 木星 夜のはじめ頃 東(おひつじ座 -3等)
土星 夜のはじめ頃 南(みずがめ座 1等)

☆秋の星座と土星・木星

秋の四辺形が空高く昇り、夜空も秋本番の頃。アンドロメダ、ペルセウス、ペガスス——聞き覚えのある神話の登場人物たちが並ぶ秋の星座が見頃です。北の空に見えるw型の星の並びの**カシオペヤ座**は見つけやすい星座の一つですが、秋の星座全体では目立つ星は少なく、唯一の1等星は、みなみのうお座の「フォーマルハウト」です。今年はその近くのみずがめ座に1等の土星、やや離れたおひつじ座に**マイナス3等**の木星も加わります。これらの惑星もたよりにしながら、まずは秋の四辺形を見つけましょう。

☆二度目のお月見「十三夜」～愛でる月、目指す月～

27日は旧暦9月13日にあたり、この日の月は「十三夜」と呼ばれます。中国由来の「中秋の名月」(今年は9月29日)とともに、日本固有のお月見の日とされています。右図のとおり、満月前の少し欠けた月を眺めてみましょう。

そして、最近では月探査も盛んに行われています。8月には、インドがチャンドラヤーン3号を南極付近へ着陸させました。日本では、過去に月周回衛星「かぐや」(2007年～2009年)が活躍しましたが、いまだに月面着陸を果たしていません。9月7日、日本の「SLIM」(小型月着陸実証機)が打ち上げられ、数か月後、SHIORI クレーターへの日本初となる月面着陸に挑みます。また、NASA 主導の国際プロジェクト「アルテミス計画」も進行中で、2025年以降、アポロ計画以来、半世紀ぶりの有人月面着陸を目指します。



図 十三夜の月

コラム～10月21日は近代プラネタリウムが誕生して100年～ 今年、1923年にドイツで近代的なプラネタリウム(半球ドームに投影機から星を映し出す)が公開されて100周年*を迎えます。日本では1937年、大阪市立電気博物館に日本初のプラネタリウムが登場して以来、国内に300ほどの施設を数えるほどになりました。100年前というと、これまで乱立していた星座が国際天文学連合(IAU)により88に統一された時期(1922年～1928年)と重なり、プラネタリウムの基本的な部分がこの頃できあがったと言えます。
*1923年10月21日、ドイツ博物館でカール・ツァイス社のプラネタリウムの試作機が公開されました。